

草津未来研究所 News Letter

第10回自治体シンクタンク研究交流会議に参加しました！



開催テーマ

「Well-Beingを高める政策づくり」
「新たな市民参画のあり方」

12月20日および21日に第10回自治体シンクタンク研究交流会議が鎌倉市にて開催されました。この交流会議は自治体シンクタンクがある自治体が持ち回りで開催しており、全国から自治体シンクタンク関係者が集

まり、自治体内のシンクタンク機能のあり方や共通課題の改善策などを議論し、新たな気づきと全国のネットワーク構築を目的に開催しています。

1 日目は(一社)スマートシティ・インスティテュート代表理事南雲岳彦氏より基調講演「Well-Being指標を活用した市民の幸福感を高める政策形成」をお話いただいた後、地域幸福度(Well-Being)指標を活用したワークショップを行いました。終了後は交流会が行われ、日ごろの取り組み等について議論を交わし、参加者間の交流がさらに深まりました。



2 日目は㈱Liquitous代表取締役CEO栗本拓幸氏より基調講演「新たな市民参画の形・成熟した民主主義への挑戦」をお話いただいた後、デジタル市民参加型合意形成プラットフォーム『Liqid』を活用したワークショップを行いました。参加者が事前にLiqid上に投稿した研究所運営の課題や役割について議論が交わされ、新たな市民参画の手法と可能性について学ぶことができました。

「自治体シンクタンク」ってなに？

自治体が設置したシンクタンク(政策研究機関)のことです。

自治体シンクタンクの定義は様々ありますが、『都市とガバナンス vol.27』(2017)では「地方自治体の政策創出において徹底的な調査・研究を行い、当該問題を解決するための提言を行うために組織された機関(団体)」と定義されています。

草津未来研究所は草津市のシンクタンクとして本市の政策課題に即しながら、課題解決や政策立案等の政策形成に結びつく調査研究活動を行っています。

